

# 横浜市インフルエンザ流行情報 8号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

## 《トピックス》

迅速キット結果で、B型の報告数がA型を上回りました。

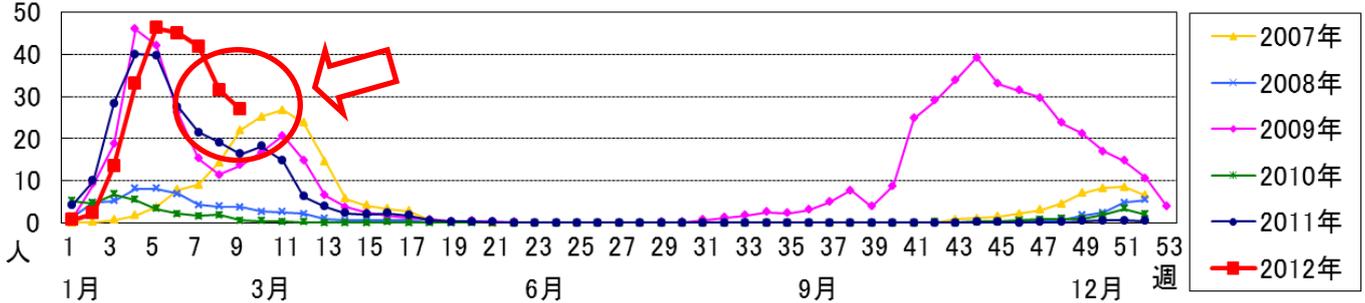
### 【概況】

第9週(2月27日～3月4日)に定点<sup>※1</sup>あたり26.84となり、減少傾向です。ただ、依然として高い流行状態が継続しているため、引き続き注意が必要です。迅速キットの結果では、B型の報告数がA型を上回りました。A型に感染した人でもB型に感染する恐れがあるため、予防対策を引き続き徹底<sup>※2</sup>しましょう。また、インフルエンザに罹った時は、マスクをしたり、無理せず休むなど、周りの人にうつさないように注意しましょう。

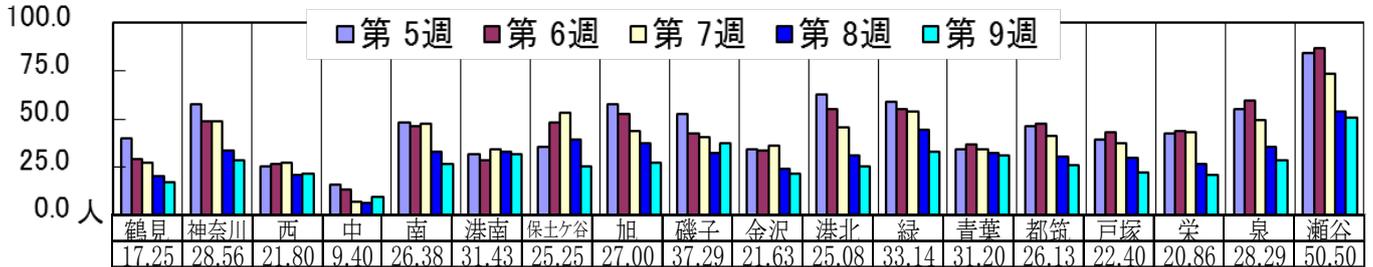
※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。

※2 インフルエンザ予防チラシ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/infulchirasi.pdf>

### 1 市内流行状況: 第9週では定点あたり26.84と、減少傾向が継続しています。



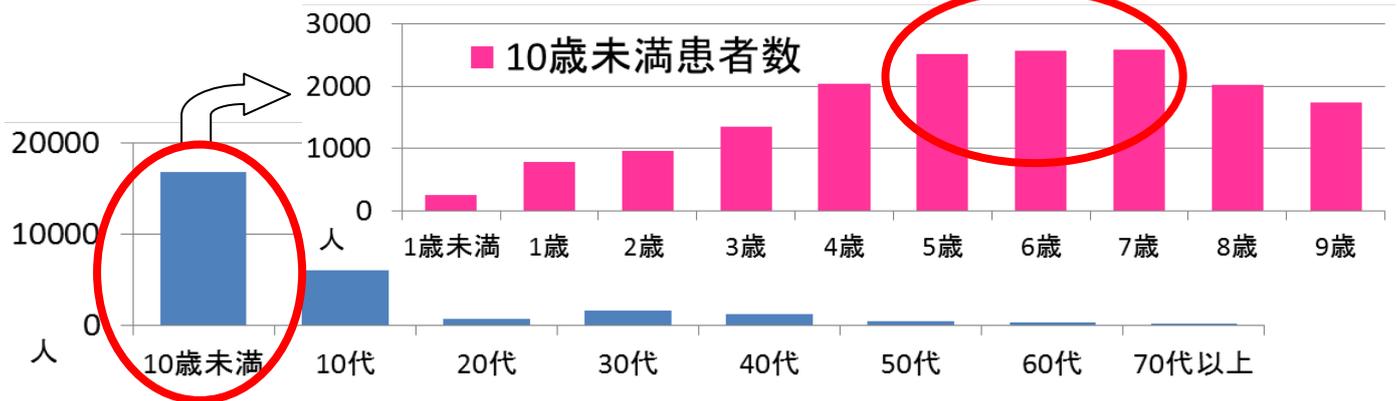
### 2 区別流行状況: 最も多い区は瀬谷区 50.50 で、次に磯子区 37.29 となっており、依然流行が続いていますが、多くの区で減少傾向です。



### 3 市内学級閉鎖等状況: 第9週では、ピーク時(第6週)の半数以下に減少しました。ただ、学級閉鎖の報告は現在も続いています。第9週の施設種別では多い順に、小学校 35 件、幼稚園 10 件、中学校 2 件、高校 1 件、保育所 1 件です。

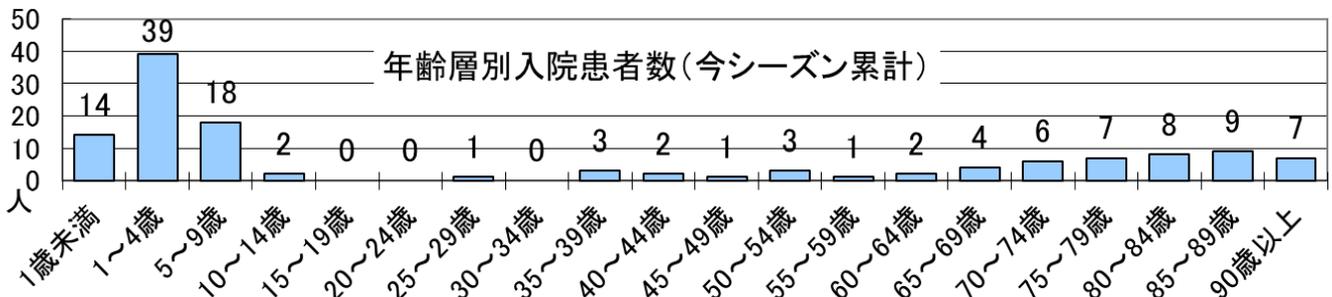


4 年齢層別集計:第5週から第9週までの直近5週間の累計では、今までの傾向と同様に10歳未満の患者が最も多く、その内訳では5~7歳で多くなっていました。

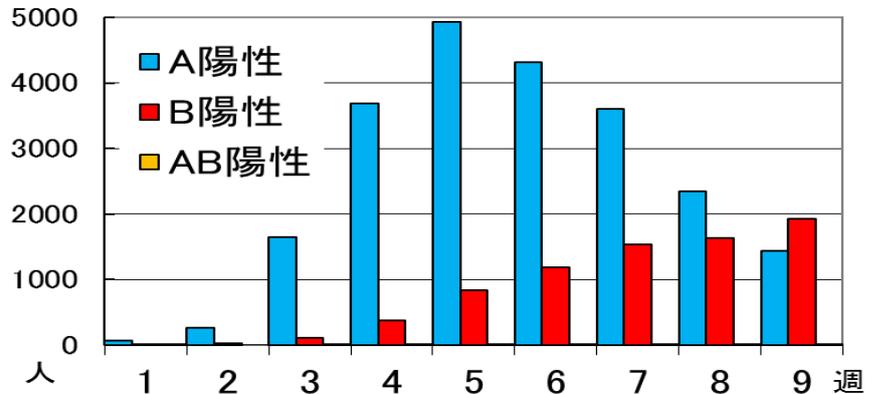


5 入院サーベランス:市内基幹定点<sup>※3</sup>医療機関における、インフルエンザの年齢層別入院患者数の集計です。10歳未満の入院が多く、次に65歳以上となっています。

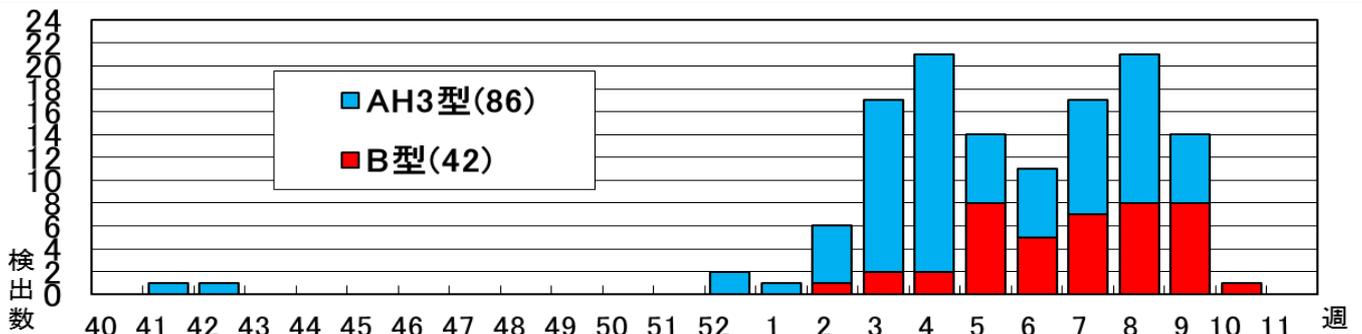
※3 基幹定点:基幹定点とは、患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には3つの基幹定点があります。



6 迅速キット結果:市内患者定点医療機関における、迅速キットによる型別の報告数では、B型がA型を上回りました。迅速キットで判定された型のうち、第9週では57.2%がB型となっています。



7 病原体検出状況:市内定点医療機関から128件検出されましたが、AH3型86件(67.2%)、B型42件(32.8%)でした。



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2463  
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (754) 9816  
 同 検査研究課ウイルス担当 TEL 045 (754) 9804